

福島のおゆき国会日誌

<東日本大震災復興特別委員会で質疑>

10日、東日本大震災復興特別委員会で、福島復興再生特別措置法改正法案の審議において質疑に立ちました。福島県浜通りに、原子力災害等からの復興を目指して国が福島国際研究教育機構（以下「機構」）を作るという内容の法案です。

私がかつて経済産業省バイオ課時代に故尾身幸次衆議院議員（元沖縄北方対策担当大臣）の強烈なリーダーシップの下関わった、沖縄科学技術大学院大学（OIST）の成功の事例と比較しながらの議論を、西銘恒三郎復興大臣らと行いました。

機構が機能するためには、さまざまな関連する研究機関などとの連携が必要です。廃炉研究を柱の一つとしている以上、これまで廃炉研究の中核となってきた日本原子力研究機構との連携について、舟木健太郎 日本原子力研究機構理事などにも答弁を求めました。そもそも、福島県浜通りは常磐線や常磐道を通じて茨城県と人的にも経済的にも密接に関係する地域です。茨城県の関係機関との連携もすべきことを西銘大臣に訴えました。こうした私の議論は、私が提案者にもなった附帯決議に以下の通り反映されています。

「十四 福島国際研究教育機構は、研究開発や人材育成に関し、被災三県をはじめとする東北及び隣接する茨城県等の廃炉等の原子力関連研究施設やエネルギーに関する大学・研究機関等とも密接な連携を取るよう努めること」

国会においても、「すべてをこの故郷のために」の思いを貫いてまいります。

<西銘大臣が事務所に来訪>



同法案が12日の本会議で可決された後、西銘大臣と冨樫博之復興副大臣が私の事務所にお礼にいらっしゃいました。大臣はご自身の言葉を交えながら真摯にご答弁してくださいました。こうした政治家同士の国会での議論ができるのは、政治家冥利に尽きます。

<有志の会 外交政策勉強会>

拉致問題を巡る交渉でミスターXとして名を馳せた、田中均元外務審議官と現下の世界情勢を受けての外交問題について、お話を伺いました。「今の日本外交は、アメリカ追随が無難なことになってしまっている。本来は、強いアメリカを活用して日本のアイデンティティを実現するのが日本の外交のあり方だ」と、日本外交の本質をお話いただきました。また、国内の勇ましい論調につられた非定型的な外交になっていることを憂いて、「正統な外交」を取り戻す政治の必要性を訴えていました。国際感覚が豊かなメンバーが揃った有志の会は、「正統な外交」を取り戻す政治勢力を目指してまいります。

<ゴールデンウィーク街宣活動>



ゴールデンウィーク中、五月晴れの日には街宣車で各地を訪問しました。新しいミニバンにしたので、細い道まで入ることができます。田植えをしたり、バーベキューをしていたりする支援者の皆さんにお会いし、沿道から多くの人にご声援をいただきました。これからも、この愛車とともに皆様のご近所にお邪魔いたします。



衆議院議員 福島伸享事務所

【国会事務所】〒100-8982 東京都千代田区永田町 2-1-2 衆議院第二議員会館 419 号室

TEL 03-3508-7262 FAX 03-3508-3532 メール h19293@shugiin.go.jp